

平成 30 年度第 2 回  
我孫子市いじめ防止対策委員会

日 時 平成 30 年 10 月 19 日（金曜日）  
午後 3 時 00 分～午後 4 時 30 分

場 所 我孫子市教育委員会 大会議室

## 平成30年度 第2回いじめ防止対策委員会

平成30年10月19日（金）

我孫子市教育委員会大会議室

15:00～

### 1 開会（倉部議長）

### 2 会議の公開について（センター長）

### 3 いじめ防止対策に関する報告および協議

#### (1) 第1回いじめについてのアンケート集計結果（センター長）

- ・平成29年度から追加した「先生に相談したいことはありますか」では、その相談内容の把握もしていかなければと考えている。
- ・いじめの認知率は、小学校では8.9%（775件）、中学校では1.3%（129件）で、昨年度と比べて小学校での認知率が高くなっている。いじめの期間は、小学校では「1～3日」「4～7日」が半数以上を占め、すぐに解決できる傾向にあるが、「約1か月」「1か月以上」と回答している児童が約31%いるので、長期化しているケースもある。中学校も長期化する傾向にある。
- ・いじめの内容については、小中学校ともに「嫌なことを言われる」が最も多く、「無視」「仲間はずれ」が一定の割合で起きている。小学校においては「殴るけるなどの暴力を受けた」という割合が2番目に多いことは注視すべき点である。「暴力を受けた」と回答する児童は4年生までが多く、5年生になるとほとんどいないことから、低中学年では、言葉で自分の気持ちや考えを伝えることが上手くできず、暴力行為をしてしまうのではないかと考えられる。小学校では「物を隠されたり、盗られたり、壊されたりする」という間接的ないじめが多いのも特徴である。
- ・いじめられた場所については、小中学校とも教室や登下校時の割合が高い。「その他の場所」の回答も多いので、細かな把握に努めたい。誰にいじめられたのかの質問では「クラスの友達」が小中学校とも多く占めており、小学校では次に「学年の友達」であるのに対し中学校では「部活動の友達」が多い。一緒に過ごす時間の長さが関係している。いじめの相談相手については、小中学校とも「親」へ相談する割合が一番高く、「友達」「先生」と続く。その一方で「誰にも相談していない」の割合が小中学校ともに高く、自力で解決しているのか把握したい点である。
- ・「誰かをいじめてますか」については、小学校では99人、中学校で39人がおり、いじめを自覚している児童生徒がいることがわかる。
- ・いじめた理由については、小学校では「いじめられた仕返し」「相手がいやがることをするから」「相手が自分勝手だから」など、相手との関係の中で起きている。「気晴らし」と回答している児童も多く、これらの児童への指導が急務である。いじめられている子を認識しているのは、小学校7%、中学校1.4%であった。誰かがいじめられているのを見たとき、「黙って見ている」が小学校では13.4%、中学校では15.9%、「一緒に笑ったりからかったりしている」を含めると、昨年度比では減少傾向にある。

## (2) 第1回インターネットや携帯電話についての調査結果

※8ページの調査結果の訂正…自分のスマートフォンや携帯を持っていますか?の円グラフで、「いいえ」の回答を24%から21%に訂正。

- ・自分のスマートフォンや携帯を持っている割合が徐々に増加している。

## (3) いじめについてのアンケートによる認知の推移

- ・今回のアンケートでは、小学校は557件と昨年比では増えている。増加が悪い傾向であると捉えるのではなく、意識が高くなっている面もあると捉えている。

## (4) 第1回いじめについてのアンケート調査後の取組み状況調査結果および考察

未解消事案について佐藤指導主事より報告。

### ・考察 (センター長)

#### ☆ 「いじめの認知について」

- ・小学校では平成28年度をピークに減少傾向にあったが、今回のアンケートでは認知数・認知率とも増えている。それは悪いことではなく、児童生徒が「いじめられている」と言える環境が出来ていると考えられる。児童生徒が、「いじめられている」と感じた時に正直に言える環境があるのは、いじめを解決するうえで大きい。

#### ☆ 「いじめられている期間について」

- ・いじめられている期間については、「1か月以上」と回答している児童生徒も多くいることから「いじめはどの学校でも起きることである」という認識を新たに持って、早期発見・早期対応に努めていかなければならない。

#### ☆ 「相談相手について」

相談相手について、「誰にも相談していない」という回答が小学校28.4%、中学校22.2%と、ともに高かった。誰にも言えないのか心配かけたくないから言えないのか、理由はそれぞれあると思われるが、「相談できる相手がいない」から相談してないのなら心配である。教育研究所で行っている「いじめ・悩み相談ホットライン」を児童生徒に、周知していきたい。ホットラインについては、6月と11月のいじめアンケートに合わせて、研究所でリーフレットの配布をしている。さらにSOSの出し方についても指導し、悩みを一人で抱え込まない環境を整えていく必要がある。

#### ☆ 「いじめが起きている場所について」

- ・いじめが起きている場所の多くは教室であることから、授業中だけでなく休み時間や放課後の教室の様子も観察し、より丁寧に把握するように努めることが大切であり、気にかかることがあれば学年職員や学校全体で情報を共有して対応することが早期解決につながる。

#### ☆ 「誰かをいじているかについて」

- ・「いじめは絶対やってはいけない行為である」とどの学校も指導しているが、「誰かをいじているか」という質問に対して、「はい」と回答する児童生徒がいる。教師はその行為の指導だけでなく、その行為をした心の中に触れるなど、心の指導がなければ、いじめは繰り返されてしまう。

- ・今後もいじめアンケートとQ-U検査を適切に活用し、いじめ防止に取り組みたい。

## (5) いじめ防止に向けた各学校における具体的な取り組み

### ①授業での取り組み

- ・ 道徳の授業や学級活動の時間に、命の大切さ・人の感情の多様性や複雑さ・友達との付き合い方・思いやりなどを取り上げた。
- ・ 小学校では「ちくちく言葉」と「ふわふわ言葉」を具体的にあげさせ、言われる側になってそれぞれの言葉を言われた時の気持ちを考えさせた。
- ・ 中学校では、携帯電話などの情報端末の誤った使用の仕方はいじめにつながることを指導した。
- ・ 学級活動での友達の良いところ探しを実施。

### ②学年集会・全校集会での取り組み

- ・ ロールプレイングを見せ、相手の立場になって考えられる力をつけるようにした。
- ・ 日常生活の中でいじめにつながる行動について、具体的に示しながら話をした。
- ・ 校長先生が、全校集会で「いじめは絶対してはいけないことである」ということを話した。

### ③その他の取り組み

- ・ 児童会・生徒会活動で、いじめ防止の標語を募集し掲示。
- ・ 毎月25日を「ニコニコの日」として、握手をしながらあいさつする運動の実施。
- ・ 委員会活動でいじめ防止のポスターを作成し、廊下等に掲示。
- ・ 全児童と個別に話をする機会を設けた。
- ・ スクールカウンセラーや心の相談員と1年生が面談。
- ・ 職員会議で、具体事例をあげて、共通理解をした。
- ・ 「いじめゼロ宣言」を全教室に掲示。
- ・ 学校独自の学校生活アンケートを実施。
- ・ LINE やグループトークによるいじめ防止について、保護者会で話をした。

※上記は実践例の一部で、学校の実態に合わせた取り組みが実践されている。

## (6) 千葉県いじめ対策調査会の資料について（資料1）

- ・ いじめの認知件数については、小学4年生までが多く、高学年になるにしたがって減少し、中学1年生で増加し、再び減少している。このことは我孫子市と同じ傾向にある。
- ・ いじめ発見のきっかけについては、小中高とも「アンケート調査」がとびぬけて多く、小学校では68.3%、中学校で57.9%である。その他のきっかけでは「本人からの訴え」「学級担任」が続いている。いじめアンケートは有効であるとする。
- ・ いじめられた児童生徒の相談状況では、「学級担任」が大部分を占め、小学校で81.3%、中学校で75.3%であり、特に担任の存在が大きいことがわかる。
- ・ いじめの態様では、「ひやかしやからかい、悪口等」が特に多い実態がある。

#### 4 意見交換

- 議 長 : 「第1回いじめアンケート集計結果」と「アンケート調査後の取組み状況および考察について」等の報告があったが、これについて何かご質問ご意見があればお願いします。
- \*城野委員 : いじめアンケートで、「今、いじめていますか」等の質問で、後で調査しているようだが、アンケートは記名か無記名、どちらで行っているのか？
- \*センター長 : 無記名で行っている。
- \*三澤委員 : アンケートは平成23年から実施されているが、今回の結果を見て、中学校で「いじめられている」が39件。「誰かをいじている」が39件など数字的に合致している。アンケートから知ることの正確さが高まってきていると思います。そんな中で、未解消の事例にもある特別支援の必要な子のいじめが、断続的にしても続いていたわけで、いじめを受けていた子のことを考えると、就学時検診での判断や4月の段階で一時支援学級での生活を勧めるなど手だてもできたのではないかと感じます。
- \*佐藤主事 : この児童の場合は、就学時検診で特別支援学級も視野にあったが、普通学級で様子を見たいということで、スタートしました。しかしトラブルが数多く発生している現状を考え、支援学級へ転籍する方向で考えているということです。
- 議 長 : このようなケースでは、前もって知りうる情報を参考にして就学相談を行っていくことも大切だと思います。支援学級では少人数ですから細かな支援がしやすい利点があります。いじめと思われる行為が繰り返されている時に、いじめととらえた指導体制をとることが大切です。我孫子市ではいじめアンケートやQ-U検査の活用の取り組みで、幸いに重大事態に至っていないです。各学校での取り組みもあるようですが？
- \*センター長 : 学校独自のアンケートを行っているところがあります。また教育相談週間を設定し、事前アンケートをとった上で一人ひとりとの面談を実施している学校があります。
- 議 長 : アンケートについては、毎月行っているところもあるようですが、どこまでやるかを考える必要があります。頻繁にやることでアンケート慣れして真実がつかめない弊害も考えられます。また面談での先生との直接のやり取りが大切です。いじめ発見では誰が一番初めに気づくかが大切なポイントでもあります。先生たちに第一に気づいて欲しいです。
- 次回のアンケートについて工夫するということがあるようですが、説明してください。
- \*センター長 : インターネットや携帯電話のアンケートで、持っている子が「どのくらいの時間使用しているのか」を把握したいと考えています。いじめとは直接関係はないがいじめにつながる可能性があるので実態を把握したい。次回に結果報告を考えています。
- 議 長 : アンケートは、何を目的として行うのが大切で、まずどのような傾向があるのかをとらえ、そのうえで深めていくアンケートが必要です。「ネット依存症」を見据えることも大切です。
- また、こういうことをアンケートでとってみては？というものがあればご意見をいただきたいです。
- \*佐藤委員 : アンケートの集計に関わりますが、複数回答を求めているものはありますか？
- \*センター長 : 問3, 4, 5, 8, 9, 10, 12です。

○議 長 : Q - U 検査も行っているが、担当主事はその結果から細かな資料を作成し、学校に行き様子を見ながら助言しています。先日の音楽発表会では昼休みに、児童生徒全体を見渡せる場所にいる担当主事に聞いたところ、こういうフリーな時間にいじめの芽が見えることがあるので観察していると言っていました。早く見つけて解決していくことが大切です。

アンケートでは見つからないネットでの例もあります。中学校がアンケートで少ないのは、そういうことも有るかもしれません。問題があれば警察とも協力して削除に至った例もあります。

\*大島委員 : 学校ではいじめを含めいろいろな生徒指導上のことがあります。アンケート以外でも担任に申し出たり、面談で把握したりしていますが、アンケートは自分を振り返る手段でもあり、貴重な手立てだと考えています。うちの学校では、毎週、生徒指導に関わる会議を持っています。その中でいじめに関わる話題も必ず取り上げ、解消しているのかを確認しています。

\*佐藤委員 : 小学校のいじめで、児童は被害者意識が強く、反面いじめている意識はないということが考えられますが、中学校で、「いじめられている…39、いじめている…39」であるが、気づいている子が41なのが気にかかる。つまり傍観者が少ない気がしません。いじめに気付いていないのか関わりを避けているのか？

○議 長 : 数字だけ見るとそのような心配はわかります。いじめ行為を周囲にわからないようにしている可能性や現実をアンケートに書きにくい面もあります。一人だけ長く書いていてと変に思われるなどの心配もあるので、他のアンケートも一緒に行ったり、他の課題を行うなど、学校には記入する際の工夫をお願いしています。

\*佐藤委員 : 新たなアンケート（スマートフォンの実態）を行う時に、聞き方の工夫をしないと優等生的回答が予想されます。そうだとすると実態が見えてこない気がします。Q - U 検査も優等生的回答をしている子もいるのではないかと。工夫が必要だと思います。

○議 長 : アンケート、Q - U 検査、面談等の対策がありますが、どれか一つに特化してしまうと問題をつかめないことがありますから、それらを総合的に判断していかなければならないと思います。いずれにしろ本心が掴めるような工夫をしていかなければならないと思います。

\*鈴木委員 : Q - U 検査についてですが、開発者である河村教授も「検査にエラーが出る」と言っています。登校しぶりのある児童がいて「Q - U 検査の結果」を見てみると、「学習・友達・学級の三角形の図が歪んでいました。満足していれば正三角形が大きいのです。「この子は学習への不安がある」「この子は友達関係で悩んでいる」がわかり、どのような支援が必要かを考えていけます。Q - U 検査は学校としてとても役立っています。

○議 長 : いじめ相談アプリ「ストップイット」ですが、近隣では柏市が採用しています。無料ということが強調されていますが、実際は初期費用として、一人300円かかりますし、実際の登録者数はまだまだ少ないようです。一つの手段であるが、今、我孫子市の取り組みを上回る効果が見られません。今後もその効果や課題を聞き取りながら検討していきたいと思っています。

**\*課長** : ストップイットは、実際の活用に大きな利点がまだ見えません。我孫子市としてはいじめアンケートやQ-U検査のさらなる活用を工夫したうえで、導入にはもう少し実態を把握し、時期を見ていってもいいと考えます。

**○議長** : 我孫子市では教育研究所の「いじめ・悩み相談ホットライン」があり、直接相談できます。

本人でも保護者からでも利用できますし、メールでの相談もできます。まだ周知されていない面もあるようです。案内カードがあるようですが、補足説明をお願いします。

**\*センター長** : 相談窓口の電話番号等の案内があるカードで、第2回のアンケート時に案内カードを配布し、周知していきたいと考えています。

**○議長** : 「いじめ・悩み相談ホットライン」も一つの手段として活用できます。アンケート、Q-U検査、面談といろいろ組み合わせていくことが大切だと考えます。以上で意見交換を終わりにします。

## 5 その他

## 6 諸連絡 (センター長)

- ・次回 第3回いじめ防止対策委員会 2月20日(水)  
15:00~16:30 教育委員会大会議室

## 7 閉会